



2025年3月期

決算説明補足資料

2025年5月9日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、日本およびフィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



※背景：フィリピンの都市 マカティ

会社概要



会社名 株式会社アイ・ピー・エス
Code・市場 4390・東証プライム

設 立 1991年10月

本社所在地 〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル 8階

代表取締役 宮下 幸治

事業セグメント  { 国際通信事業
メディカル&ヘルスケア事業
 国内通信事業

連結子会社

海外子会社7社

- InfiniVAN, Inc.
- ISMO Pte. Ltd.
- Carrier Domain, Inc.
- KEYSQUARE INC.
- CorporateONE, Inc.
- Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC)
- Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

国内子会社1社

- 株式会社アイ・ピー・エス・プロ





1 | 2025年3月期 決算概要

2025年3月期 決算概要

売上高

15,264百万円

前年比（増減額）

+8.1%（+1,146百万円）

営業利益

4,413百万円

前年比（増減額）

+13.3%（+519百万円）

売上高・営業利益
ともに過去最高を
更新

その他指標

営業利益率

28.9%

2025年3月末時点、期末為替レート

1ドル = 149.53円（151.40円）

1ペソ = 2.61円（2.69円）

※（）内は前期末（2024年3月末）時点

2026年3月期 通期業績予想

売上高

18,000百万円

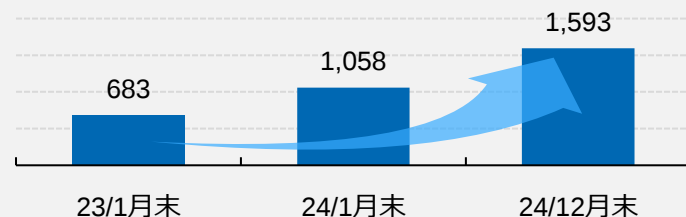
営業利益

5,250百万円

中期経営計画に対する進捗状況



業績目標	売上	営業利益	利益率	ROE
2024年5月 策定	16,500	4,290	26.0%	20%以上
2025年3月期 実績	15,264	4,413	28.9%	19.2%

セグメント別の状況	目標	進捗							
国際通信事業	■ フィリピン国内海底ケーブルネットワーク（PDSCN）を中心とした国内基幹網を活用し、事業成長を果たすとともに、インターネット環境の地域間格差を是正する	■ PDSCNと国際回線C2Cによるネットワークの強みを生かし、地方展開を加速。インターネット環境の地域間格差は正に貢献。通信機器とネットワークを組み合わせた販売が拡大し、事業の多様化が進む。							
	■ 法人向けインターネット接続サービスの2026年末の課金顧客数を4,500件に拡大	■ 2024年12月末の課金顧客数は1,593件となった - ー 社内体制の強化等により契約から開通、課金までの工程の迅速化を図る  <table><caption>課金顧客数の推移</caption><thead><tr><th>期末</th><th>顧客数</th></tr></thead><tbody><tr><td>23/1月末</td><td>683</td></tr><tr><td>24/1月末</td><td>1,058</td></tr><tr><td>24/12月末</td><td>1,593</td></tr></tbody></table>	期末	顧客数	23/1月末	683	24/1月末	1,058	24/12月末
期末	顧客数								
23/1月末	683								
24/1月末	1,058								
24/12月末	1,593								
国内通信事業	■ 電話網のIP化（PSTNマイグレーション）に対応した新たなビジネスの開発	■ PSTNマイグレーションを契機として、「0120」「0570」を自社提供する新サービス開始に向けた準備を進める。今期まず「0120」関連サービスを開始予定							
メディカル&ヘルスケア事業	■ レーシック：日本式の安全なレーシックの提供により、安定的な成長を図る ■ 予防医療：予防医療の重要性の認知を高め、日本式の健診、最新鋭の画像診断装置 & 院内ラボを、法人の定期健康診断としての提供を促進していく	■ レーシックは競争環境の激化等の影響を受けながらも、マーケティング戦略の変更等により引き続き黒字を維持 ■ 人間ドック・健診センターは、当初計画から遅れはあるものの、法人経由、個人ともに来院患者数は着実に増加							

2025年3月期 連結実績

(百万円)	第4四半期				通期累計			
	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	%	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	%
売上高	5,767	4,031	▲1,736	▲30.1%	14,117	15,264	+1,146	+8.1%
営業利益 (利益率)	2,439 (42.3%)	1,200 (29.8%)	▲1,238	▲50.8%	3,894 (27.6%)	4,413 (28.9%)	+519	+13.3%
経常利益	2,872	716	▲2,155	▲75.1%	4,427	4,073	▲353	▲8.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,884	119	▲1,764	▲93.7%	2,835	2,544	▲291	▲10.3%

※本資料に記載の数値は百万円未満切り捨ての数値を記載しております

2025年3月期通期 実績分析

- **売上高**：国際通信事業の増収が主に寄与し、前年同期比8.1%の増収。四半期ごとの売上平準化進む
- **営業利益**：国際通信事業の増収に伴い利益も伸長、国内通信事業とメディカル&ヘルスケア事業の赤字を吸収し、前年同期比13.3%の増益。高利益率を維持
- **経常利益**：2025年3月末のドル円相場が1ドル=149.5円と、2024年3月末（1ドル=151.4円）に比べて円高になったことなどにより為替差損276百万円（前期は為替差益730百万円）を計上し、前年同期比8.0%の減益
- **親会社株主に帰属する当期純利益**：為替差損の計上等により、前年同期比10.3%の減益

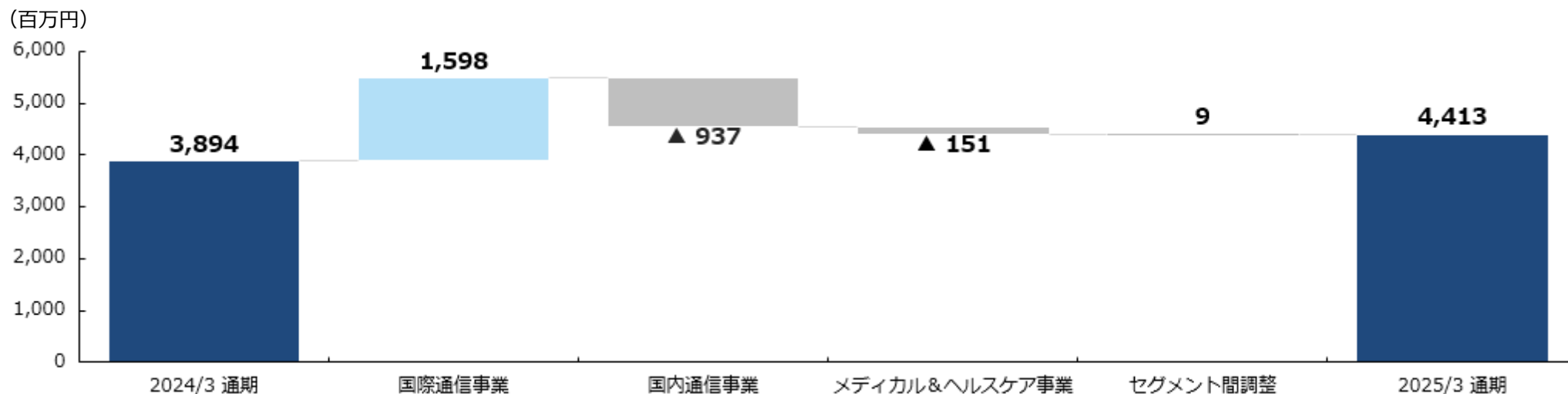
セグメント別実績

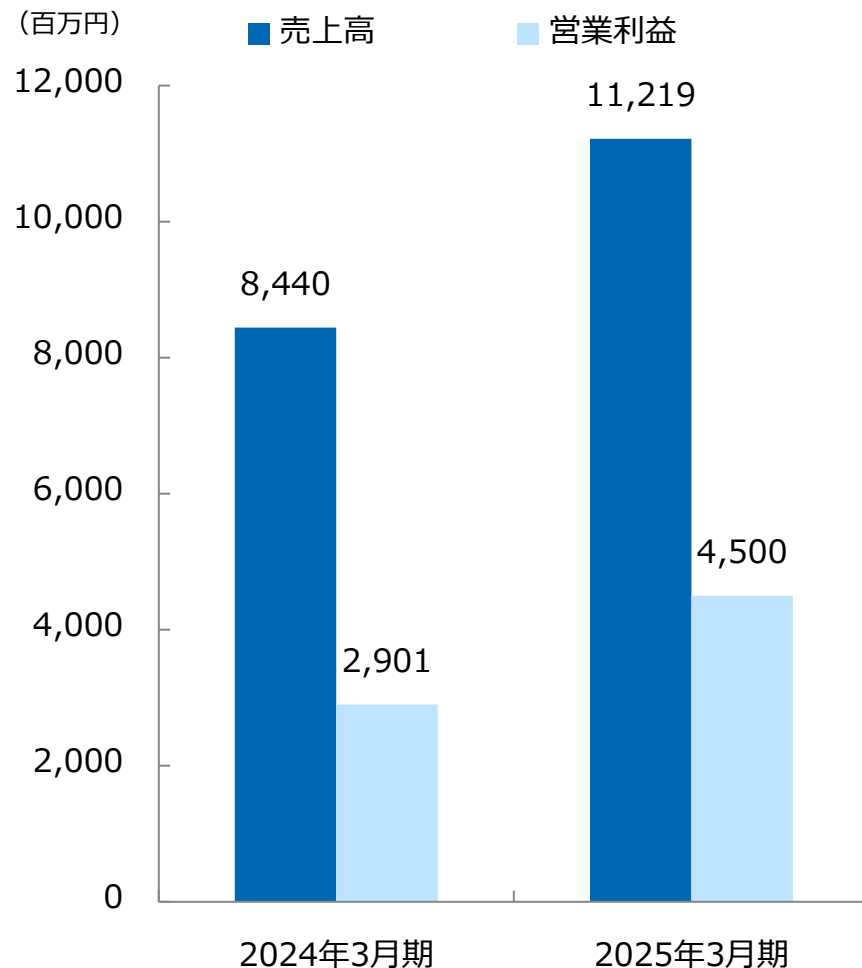


単位：百万円		通期累計 実績		
		2024年3月期	2025年3月期	前年同期比
■ 国際通信事業	売上高	8,440	11,219	+2,778 (+32.9%)
	営業利益	2,901	4,500	+1,598 (+55.1%)
■ 国内通信事業	売上高	4,116	2,489	▲1,626 (▲39.5%)
	営業利益	925	▲11	▲937 (—)
■ メディカル&ヘルスケア事業	売上高	1,561	1,555	▲5 (▲0.4%)
	営業利益	67	▲84	▲151 (—)

※本資料に記載の数値は百万円未満切り捨ての数値を記載しているため、表内での算出金額とは一致しない場合があります

営業利益増減分析（前年同期比）



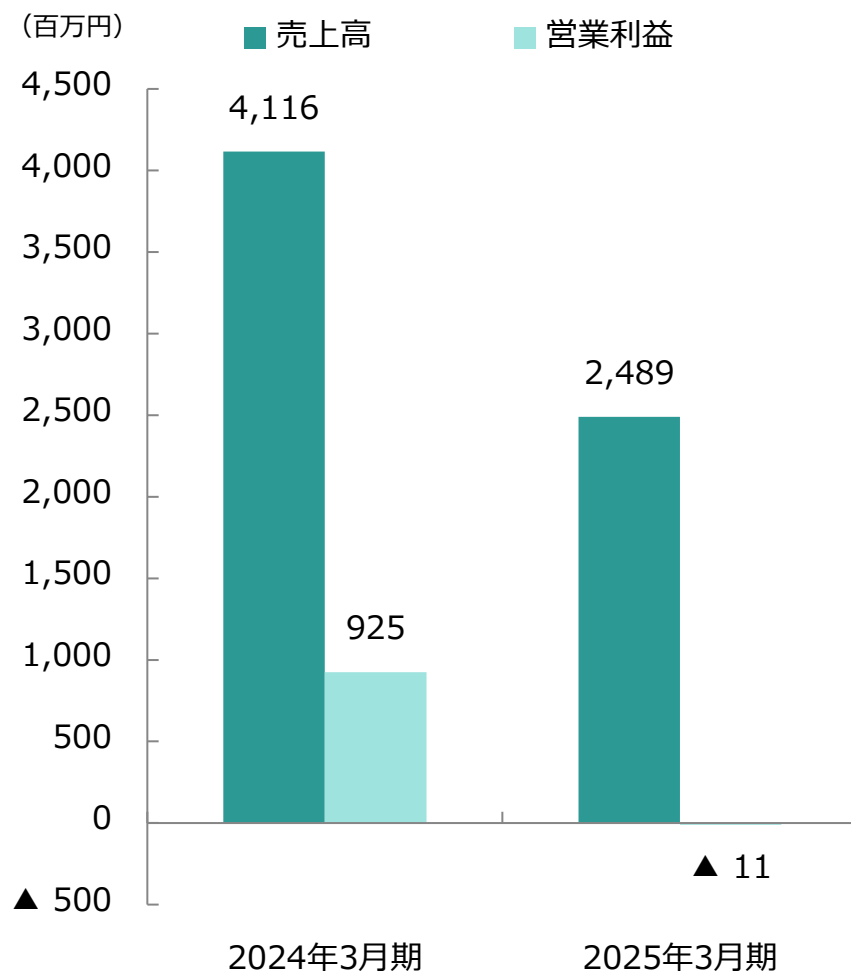


ネットワーク提供、地方展開が収益貢献

- フィリピン国内基幹網の中心となるPDSCN^{*1}と、国際回線C2C^{*2}によるネットワークの強みを生かした回線、サービスの提供を地方展開したことが収益に貢献。事業全体で増収増益に
- 地方の通信事業者へ、大口だけでなく小口容量販売を含む回線や、ネットワークを組み合わせた通信機器の販売が拡大
- 法人向けインターネット接続サービスは、大手銀行等の金融機関や大規模工業団地等の重要顧客との契約を拡大。課金顧客数は2024年12月末時点で1,593件に増加しており、開通、課金に向けた工程管理の最適化等のペースアップに引き続き注力
- フィリピン中部の観光都市セブ市のスマートシティ化プロジェクトにおいて、高速で安定的な通信インフラの提供による支援に関する通知を受領。政府機関や自治体との協力関係を一層強化

注1: PDSCN = Philippine Domestic Submarine Cable Network。フィリピン国内海底ケーブルシステムネットワーク

注2: C2C = City-to-City Cable System。フィリピンー香港およびフィリピンーシンガポールを結ぶ国際海底ケーブル

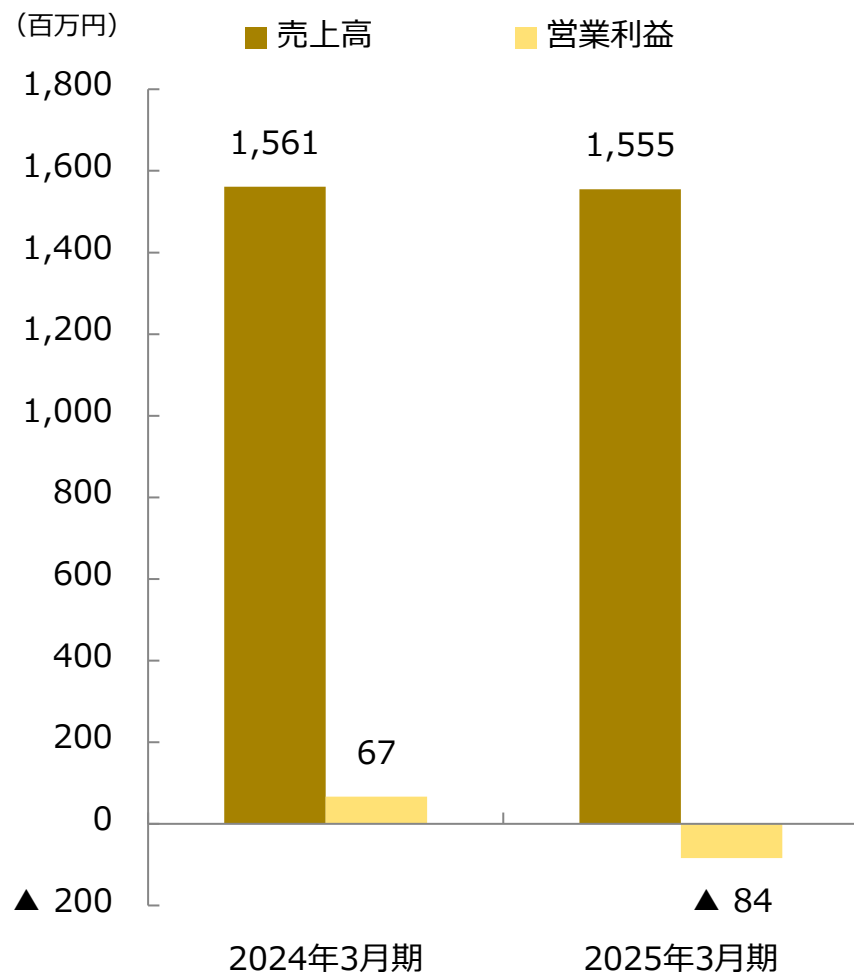


アクセスチャージに関する過年度遡及精算および一部取引見直しで営業赤字

- 通信事業者間の接続料（アクセスチャージ）について、電話網のIP化（PSTNマイグレーション）の影響を受け、接続料水準の変更や3年度分の遡及精算が一時的に発生。一部取引を保守的に見直したことでトラフィック減少。これら要因により営業赤字
- コールセンター事業者向けのソリューションサービスにおいては、2025年度中に、従来大手通信事業者から仕入れていた0120^{*1}の自社提供開始を予定。2026年度中には0570^{*2}でも同様サービスの開始を見込み、顧客ニーズに一層柔軟に対応するとともに、利益率の改善を計画
- コールセンター事業者向けクラウドCTIの通話料金定額サービスの販売開始及び音声認識やLLM（大規模言語モデル）を搭載したAI関連サービスとの連携強化を図り、新規顧客開拓を目指す

注1：「着信課金機能」の番号。着信者に課金される仕組み

注2：「統一番号機能」の番号。発信者に課金される仕組み。1つの0570番号で全国各地に設置した拠点での電話受付が可能。企業やサービス提供者が問い合わせ窓口を一本化し、効率的な対応を行う目的で使用されることが多い



人口増によるレーシック適応拡大を予想

- ・ レーシックは競争環境が激化も黒字着地、人口増加による若年層中心の適応拡大を予想。マーケティング手法やサービス体系の見直しによる手術件数増加に注力
- ・ 日本基準のクリニックでの高付加価値な顧客体験を、SNSのショート動画で発信するなどの若年層向けプロモーションや、現地金融機関と連携した分割払いの金利優遇などの施策を引き続き展開
- ・ オペレーションの効率化や人間ドックとのシナジー効果を狙い、一部老朽化が進んだマカティ院を閉じてオルティガス院・BGC院に集約し、2院体制に移行

人間ドックは着実に患者数伸長

- ・ 日本式で充実した定期健診をフィリピンの法人・個人向け中心に提供し、2024年は月間平均来院患者数が2023年比で約2.4倍に増加。特に下期は、上期に比べ倍増しており、成長ペースが加速
- ・ 当初計画に比べ進捗が遅れがあり、先端診断機器にかかる減価償却費等を吸収しきれず赤字計上（キャッシュフローは月次で黒字転換）。収益性の高い外資系企業の需要開拓やSNSなどを通じた予防医療の啓発活動を継続し、通期黒字化を計画

連結貸借対照表（サマリー）

（百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2024年3月期末	2025年3月期末	増減		2024年3月期末	2025年3月期末	増減
流動資産	17,864	23,637	5,772	流動負債	12,532	16,747	4,215
現金及び預金	4,234	3,918	▲ 316	買掛金	670	1,137	467
売掛金	5,532	11,269	5,736	借入金	4,587	6,059	1,472
リース投資資産	5,789	6,517	728	繰延延払利益	4,076	4,709	633
その他	2,307	1,932	▲ 375	その他	3,197	4,840	1,642
固定資産	15,624	18,363	2,738	固定負債	5,814	4,300	▲ 1,513
有形固定資産	11,565	12,882	1,316	長期借入金	5,514	4,010	▲ 1,503
無形固定資産	2,865	4,006	1,141	その他	299	289	▲ 9
投資その他資産	1,194	1,474	280	負債合計	18,346	21,048	2,702
繰延資産	40	30	▲ 9	純資産	15,183	20,982	5,799
				株主資本	11,090	12,976	1,886
				その他の包括利益累計額	210	2,263	2,052
				新株予約権	264	290	26
				非支配株主持分	3,617	5,452	1,834
資産合計	33,529	42,031	8,501	負債・純資産合計	33,529	42,031	8,501

※本資料に記載の数値は百万円未満切り捨ての数値を記載しているため、表内での算出金額とは一致しない場合があります



2 | 2026年3月期 業績予想

想定為替レート ・1ドル=140円 ・1ペソ=2.5円	2025年3月期 通期実績	2026年3月期			
		上期	下期	通期	前年実績比
売上高	15,264	8,200	9,800	18,000	+17.9%
営業利益	4,413	2,000	3,250	5,250	+18.9%
経常利益	4,073	1,800	3,100	4,900	+20.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,544	900	2,100	3,000	+17.9%

通期予想の概要

- 売上高および営業利益は、180億円、52.5億円を見込む。
経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は、49億円、30億円を見込む。
- 国際通信事業は、InfiniVANにおいてC2C回線とPDSCNを中心としたフィリピン国内基幹網のネットワークを生かした回線や通信サービスの提供をマニラ首都圏及び地方へと展開する予定。地方における顧客基盤の拡大と事業の多様化を推進することにより、増収増益を見込む。
- 国内通信事業は、アクセスチャージに係る一部取引の見直し等の影響が続くほか、通信事業者間の通信トラフィックに一部減少が見込まれるものの、電話網のIP化に対応した新たなサービスや、収益性の高いコールセンター向けソリューションの提供拡大などにより、黒字転換を見込み、回復基調に入る見通し。
- メディカル&ヘルスケア事業については、レーシックの競争環境は厳しさが続く見通しであるものの、需要に応じたプロモーションや事業運営の適正化を行い、収益を改善させる計画。
健診センター・人間ドックでは、予防医療の重要性に関する啓発活動を継続する中、来院患者数が着実に伸長しており、リピーターの獲得につながる事が期待される。事業全体では黒字転換を計画。

2026年3月期 セグメント別業績予想について



(百万円)

セグメント		2025年3月期	2026年3月期 予想	増減
売上高		15,264	18,000	+2,736
	国際通信事業	11,219	13,550	+2,331
	国内通信事業	2,489	2,450	▲39
	メディカル&ヘルスケア事業	1,555	2,000	+445
営業利益		4,413	5,250	+837
	国際通信事業	4,500	4,800	+300
	国内通信事業	▲11	250	+261
	メディカル&ヘルスケア事業	▲84	200	+284
	セグメント間取引消去	9	—	—
営業利益率		28.9%	29.2%	—
	国際通信事業	40.1%	35.4%	—
	国内通信事業	—	10.2%	—
	メディカル&ヘルスケア事業	—	10.0%	—

※本資料に記載の数値は百万円未満切り捨ての数値を記載しているため、表内での算出金額とは一致しない場合があります

配当金の状況	中間	期末	合計
2024年3月期	17.5円	19.5円	37円
2025年3月期	20円	20円	40円
2026年3月期 予想	20円	20円	40円



今後3年間を目安に配当水準を据え置く見通し

- 当社は、安定的かつ持続的な株主還元を経営の重要方針と位置付けております。（配当性向20%維持）
- 一方で、今後予定している大型戦略投資（アジア国際海底ケーブルの建設等）は、将来的な収益力強化と企業価値向上に直結するものであり、中長期の成長実現に不可欠と考えております。
- これに備え、財務健全性と資金機動性の確保を優先する必要があると判断し、投資期間完了までのおおよそ3年程度は配当水準を据え置く方針といたしました。
- なお、当社はこれまでも効率的な資本運用を重視しており、プライム上場企業の平均を大きく上回るROEを継続的に実現する等、高い投資収益性を維持してまいりました。こうした実績を背景に、今後予定する大型戦略投資でもリターンの最大化を図り、将来的により高い水準での株主還元の実現を目指してまいります。

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1

東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331